

令和 8 年 4 月

令和 8 年度 鈴鹿市立深伊沢小学校

学校経営の改革方針

1 めざす学校の姿

《鈴峰中学校区統一キャッチコピー》

「地域とともにたくましくチャレンジする鈴峰の子」

【学校教育目標】

「自分 OK！みんな OK!」

ともに挑み、ともに楽しむ子の育成

【めざす学校像】

- 互いを認め合い、挑戦が生まれる学校。
- 「対話」と「協働」があふれる学校。
- こどもの「やりたい」をかたちにする学校。
- 地域・家庭とともに歩む、信頼される学校。

【めざす子ども像】

- 自立:自分の良さを見つけ、自分の考えを自分の言葉で伝えられる子。
- 共生:仲間の良さを認め、多様な意見を楽しめる子。
- 挑戦:困難なことにも仲間と協力し、粘り強く取り組む子。
- 追求:行事や学習の中にも自ら「おもしろさ」を見出し、学びを深める子。

【めざす教師像】

- 確かな指導力と豊かな人間性で、こどものよさを引き出す教師。
- 自己研鑽に努め、互いに学び合う同僚性の高い教師。
- こどもとともに、挑戦を楽しむ教師。

2 現状と課題

(1) 学力保障・学力向上について

現状

(児童アンケートの結果より)

- ・「計算ができるようになってきた」R7(前期)91.4%⇒(後期)97.9%
- ・「学校の勉強はわかる(ICT 機器の活用)」R7(前期)94.3%⇒(後期)92.3%
- ・「苦しいことや困ったことがあってもあきらめない:否定的回答 R7(前期)19.72%⇒(後期)21.92%

(保護者アンケートの結果より)

- ・学校は ICT 機器の利用や教材の工夫でわかりやすい授業をしている。

R7(前期)88.8%⇒(後期)90.7%

課題

- ・特別支援教育の視点に立ち、個々の課題に対応した教育の推進。
- ・粘り強くやり抜く力の育成や適切な教師の見取りと支援。

(2) 不登校対策について

現状

- ・不登校児童1名(R7年度欠席日数90日)
- 登校支援を要する児童1名(R7 年度欠席日数16日 遅刻日数163日)

課題

- ・保護者との情報共有や生活改善への働きかけ
- ・校区全体で取り組むポジティブメッセージカードの活用を継続し、自己肯定感の涵養を図る。
- ・生徒指導の在り方を校区で共有し、統一を図る。

(3) 人権教育の充実について

現状

- ・縦割り班活動による異年齢交流を行い、年間を通して学習や清掃活動等をともにすることを通して、仲間のよさに気づき、思いやりの心が育っている。
- ・単級であるため、交友関係や集団としてのバランスを保とうとしてしまい、本音が出ないことがある。

課題

- ・自分や仲間のありのままを受け入れ、ともに成長し、変化していく過程の共有。

(4) 校区及び地域連携と協働について

現状(保護者アンケートより)

- ・「学校は、地域・保護者・学校の連携を図りながら教育活動を進めている。」

(前期)97.2%⇒(後期)99.0%

- ・小中一貫教育を見据え、校区で情報交換を行い、統一した取り組みを行っている。

課題

- ・保護者や地域と協働で開催する FCE を持続可能にするための人材発掘と円滑な引継ぎ。
- ・小中一貫を見据えた校区での取組を積極的に発信し、保護者・地域への理解を図る。

(5) 信頼される学校と働きやすい職場づくりについて

現状

- ・保護者アンケートにおいて、学校の教育活動に関わる8項目中、6項目以上で肯定的回

答90パーセント以上。

- ・2月末までの職員の平均時間外勤務時間は目標の20時間を達成。(R6 年度と同じ)

課題

- ・学校の教育方針の積極的な発信と、教職員の働き方改革への理解促進。

3 重点目標

- (1) 「主体的な学び」のステップアップ
- (2) 思いやりでつながる仲間づくり
- (3) 校区連携、地域連携・協働の充実と安全・安心な環境づくり
- (4) 「やり抜く力」の育成
- (5) 職員の時間外労働時間削減とコンプライアンス意識の向上

4 本年度の具体的行動計画

- (1) 学力保障・学力向上
 - ・本校の掲げる「すべてのこどもが安心して学べる授業づくり」(別紙)の実現のため、計画的な校内研修を行い、(月1回以上)授業改善に取り組む。
 - ・4つのサイクル(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を意識した学習を進めるため、T.T を活用した授業実践を行い、細やかな教師の見取りと支援を行う。
児童アンケート「学校の勉強はわかる(ICT 機器の活用)」95%以上
- (2) きめ細かな対応と不登校対策
 - ・児童理解支援シートを活用し、特別支援教育コーディネーターを中心として未然防止・早期対応を図る。また、スクールカウンセラーや関係機関と連携し、児童や保護者に寄り添った支援を行う。(支援会議年間25回以上)
 - ・こどもの状況交流会を月1回設定し、教職員全員で支援体制を充実させる。
- (3) 人権教育の推進と生徒指導・安全指導の充実
 - ・「自分 OK! みんな OK!」を合言葉とし、自他を大切にできる仲間づくりを実践する。
非認知能力アンケート「私は自分という存在を大切にしている」否定的回答15%以下
「友達が困っているとき助けることができる」否定的回答5%以下
 - ・生徒指導部が中心となり、校区で統一した「ポジティブ生徒指導」を推進する。
 - ・学校生活での安全にかかわるトラブルについて、未然防止の指導を重視する。
- (4) 小中一貫教育を見据えた小中連携の推進
 - ・行事の合同化(校区合同自然教室、合唱キャラバン)や教材等各種ファイルの共有を進める。
 - ・教職員の合同研修や積極的な授業公開(1回以上)を行う。
- (5) 働きやすい職場づくり
 - ・定時退校日:月3日設定(第3木曜日, 第4金曜日, 他1日)職員の達成率100%

- ・放課後の会議短縮:60 分以内終了 100%
- ・時間外労働時間上限:年360時間を超える職員・月 45 時間を超える職員0
職員一人当たりの時間外労働時間 月平均30時間以下
- ・一人あたりの年平均休暇取得の目標日数23日以上(前年度 22.6日)

(6) 服務規律に関する研修の実施

- ・職員会議や打ち合わせでコンプライアンス意識の浸透を図る。(每学期1回以上)

(7) 非認知能力の育成

- ・課題となっている「粘り強くやり抜く力」の育成を図るため、日常的な SST を継続的に行い、適切なフィードバックと職員間での情報共有に努める。
非認知能力アンケート「苦しいことや困ったことがあってもあきらめない」否定的回答 15%以下
- ・縦割り班活動が児童主体の取組となるよう、充実させる。
非認知能力アンケート「友達と助け合いながら活動できる」否定的回答 5%以下

(8) 地域と連携した教育活動の充実

- ・FCE(深伊沢コミュニティイベント)を地域と協働で開催する。
保護者アンケート「学校は、地域・保護者・学校の連携を図りながら教育活動を進めている。」
95%以上